

### 5.3.3 全ての水鳥類の種数・個体数における経年変化

全ての水鳥類の種数と個体数を科別（カモ科、カイツブリ科、ウ科、サギ科、クイナ科、チドリ科・ミヤコドリ科・シギ科、カモメ科）に整理した（平成10年9月から令和3年1月まで）。

水鳥類の種数（科別）の経年変化を図5-68～図5-70に、水鳥類の個体数（科別）の経年変化を図5-71～図5-73に示す。水鳥類の種数と個体数の経年変化を表5-5～表5-7に示す。なお、調査地点数については、春の渡り期と秋の渡り期は2地点（B1・B2）、越冬期は4地点（B1・B2・B3・B4）とした。

種数（科別）の経年変化をみると、各期とも工事前と工事中において種数に大きな変化は確認されなかった。春と秋の渡り期は、チドリ科・ミヤコドリ科・シギ科等の水鳥類が繁殖地と越冬地を往復する季節であり、チドリ科・ミヤコドリ科・シギ科が優占した。越冬期は越冬のために飛来する種が多いカモ科が優占した。

個体数（科別）の経年変化をみると、各期とも工事前と工事中において個体数に大きな変化は確認されなかった。

春の渡り期の個体数については、チドリ科・ミヤコドリ科・シギ科が優占した。チドリ科・ミヤコドリ科・シギ科は、平成16年に500個体を超えたが、平成21年（工事前）と24年（工事中）は100個体を下回るなど、チドリ科・ミヤコドリ科・シギ科の個体数については、工事中のみならず、工事前においても年度によって変動が大きいことが確認された。

秋の渡り期の個体数については、ほかの科に比べ、チドリ科・ミヤコドリ科・シギ科が優占したが、カモメ科がチドリ科・ミヤコドリ科・シギ科よりも多い年（平成10年・13年・23年・24年・29年）もあった。秋の渡り期のチドリ科・ミヤコドリ科・シギ科の個体数は、春の渡り期ほどほかの科に比べて特に多いという傾向はなかった。平成20年8月にチドリ科・ミヤコドリ科・シギ科の個体数が200を超えたものの、工事前、工事中の期間に関わらず、秋の渡り期のチドリ科・ミヤコドリ科・シギ科の個体数に大きな変化は確認されなかった。ただし、平成29年と平成30年の個体数は例年に比べやや少なかった。

越冬期の個体数については、ほかの科に比べカモ科が優占したが、カモ科よりもカモメ科が多い年（平成15年、24年）も確認された。カモ科の最大個体数は、最も多い年で1642個体（平成16年1月）、最も少ない年で201個体（平成24年1月）であった。平成31年1月のカモ科の個体数は885個体と工事期間で最も多かった。クイナ科（オオバン）については、平成26年1月に145個体、平成29年1月に77個体と多い年もあった。工事前、工事中の期間で特に大きな変化は確認されなかった。

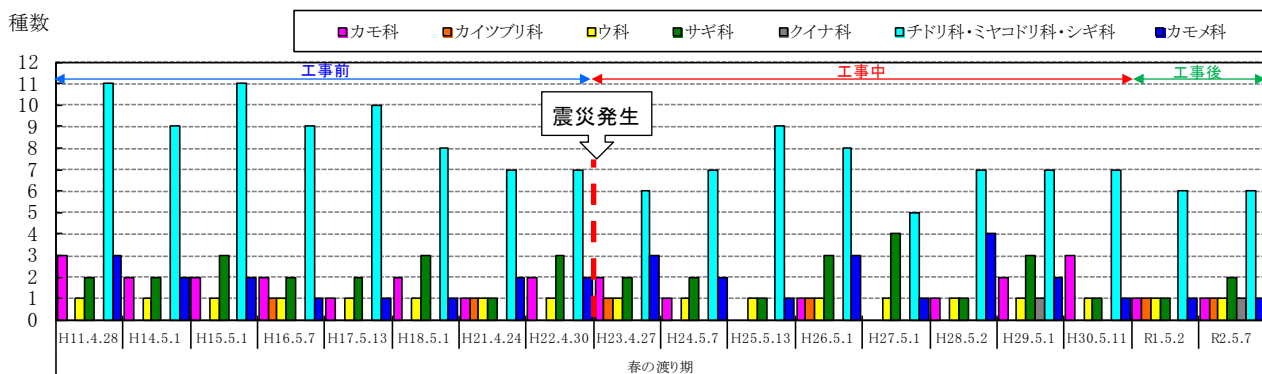


図 5-68 水鳥類の種数（春の渡り期）

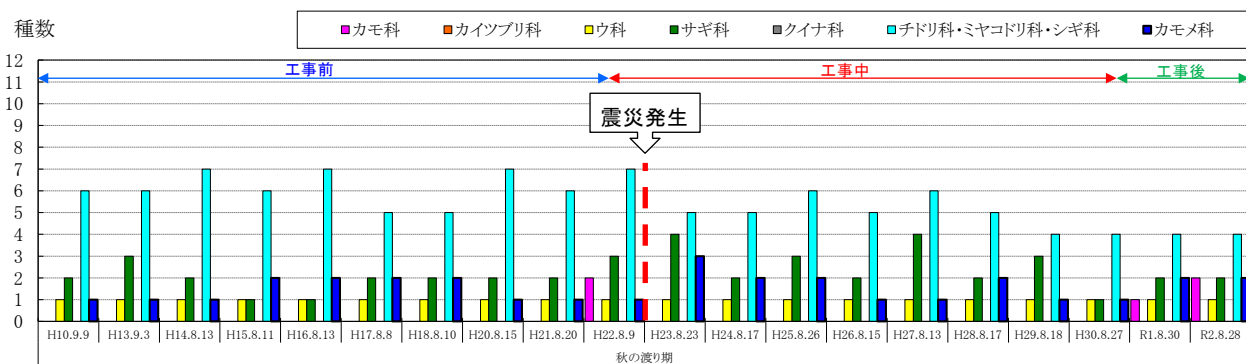


図 5-69 水鳥類の種数（秋の渡り期）

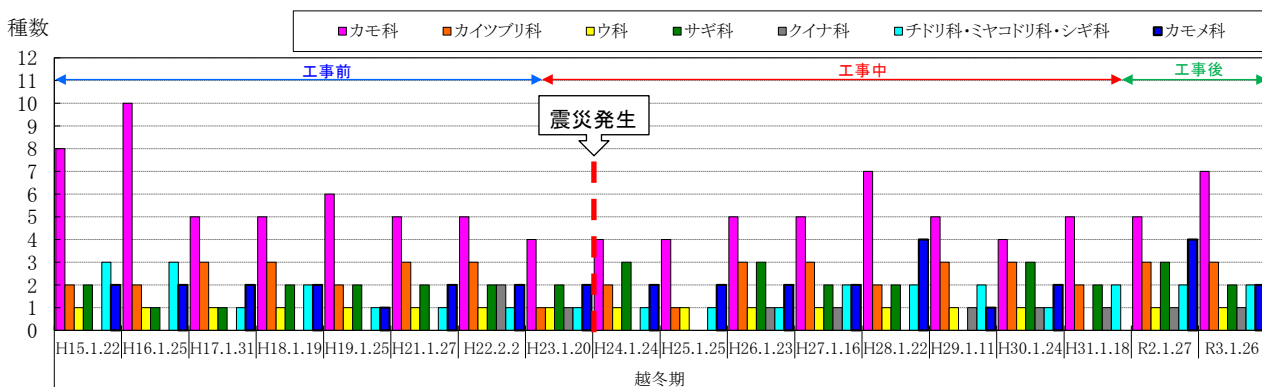


図 5-70 水鳥類の種数（越冬期）

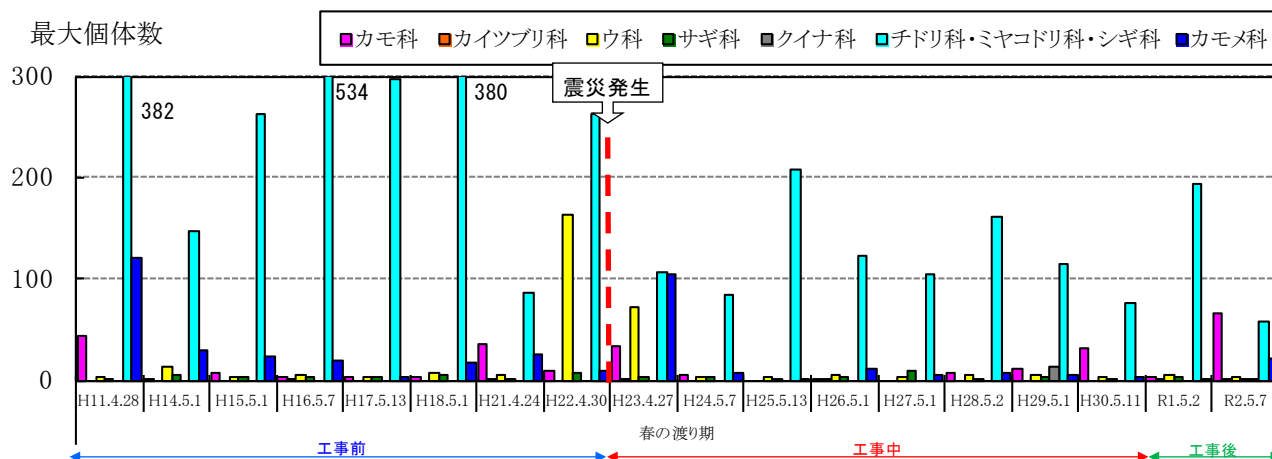


図 5-71 水鳥類の個体数（春の渡り期）

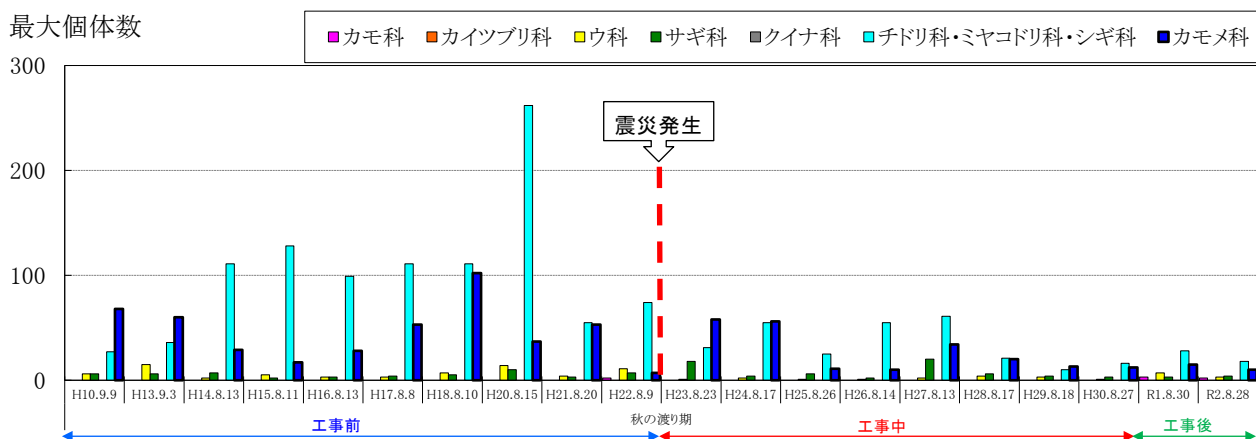


図 5-72 水鳥類の個体数（秋の渡り期）

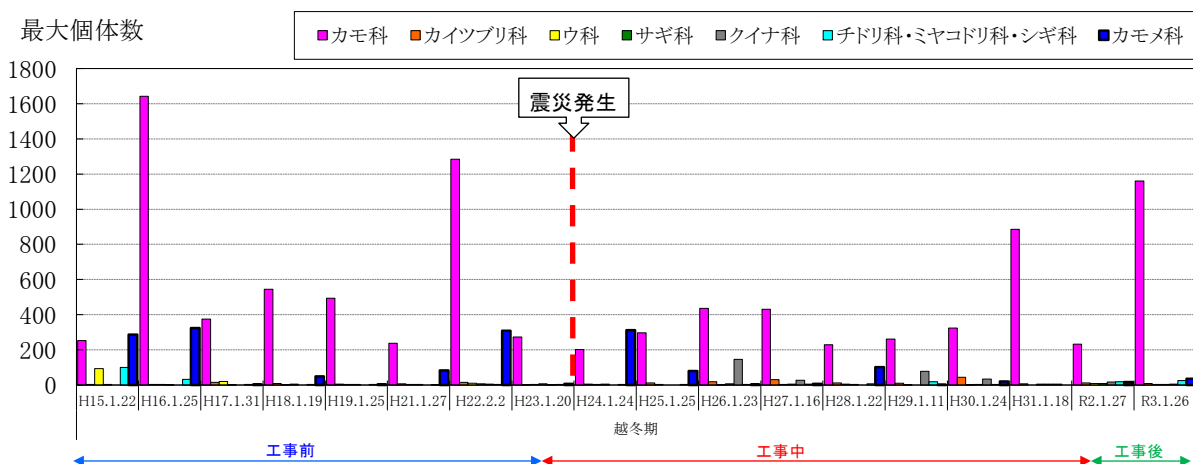


図 5-73 水鳥類の個体数（越冬期）





5 モニタリング調査結果

表 5-7 水鳥類の種数と個体数の経年変化(越冬期)

No.	目名	科名	種名	注目種	越冬期																		
					H15年 1月	H16年 1月	H17年 1月	H18年 1月	H19年 1月	H21年 1月	H22年 2月	H23年 1月	H24年 1月	H25年 1月	H26年 1月	H27年 1月	H28年 1月	H29年 1月	H30年 1月	H31年 1月	HR2年 1月	HR3年 1月	
1	カモ目	カモ科	オカヨシガモ																				
2			ヨシガモ			1									2								
3			ヒトリガモ	★	131	54	71	28	28	36	64	15	35	67	33	46	49	20	1		6	5	
4			アメリカヒトリ			1	1										1						
5			マガモ		8				9													8	
6			カルガモ		8																		
7			ハシビロガモ																				
8			オナガガモ		148	56	173	133	91	28	191	126	79	98	202	139	60	22	29	2	17	86	
9			コガモ																				
10			ホシハジロ		44	1											3			232	72	335	
11			キンクロハジロ		38	5		4	2		10									43		6	
12			スズガモ	★	263	1516	125	374	363	160	1008	127	86	127	192	243	109	205	278	601	126	709	
13			コスズガモ								1												
14			ホオジロガモ		2	2				4							1						
15			カワアイサ		1	1							1			1		1					
16			ウミアイサ		7	5	4	5	1	9	12	5		4	6	2	6	13	15	7	11	12	
17	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ		6	1	1	1	2	1	2				3	2			1		1		
18			カンムリカイツブリ		1		7	3	2	2	5	1	1		4	4	5	6	6	2	4	4	
19			ミカイツブリ															1				1	
20			ハジロカイツブリ		1	1	7	4		4	7		3	11	11	24	7	3	36	5	6	3	
21	カウオドリ目	ウ科	カワウ	★	93	2	20	1	3	2	10	3	2	2	1	2	5	1	1		8	3	
22	ペリカン目	サギ科	ゴイサギ																				
23			ササゴイ																				
24			アオサギ										2		1	2	1		1	1	4	1	
25			ダイサギ	★	1			2	1	1	3	2	1		1				1		3		
26			チュウサギ																				
27			コサギ	★	1	1	1	3	1	2	3	5	1		4	2	2		1	3	1	1	
28	ツル目	クイナ科	バン								2												
29			オオバン								2	1			145	27		77	33	4	16	4	
30	チドリ目	チドリ科	ムナグロ		26																		
31			ダイゼン		35																		
32			ハジロチドリ																				
33			イカルチドリ																				
34			コチドリ																				
35			シロチドリ	★	43	10		1															
36			メダイチドリ																				
37			オオメダイチドリ																				
38		ミヤコドリ科	ミヤコドリ													1	4	17		3	17	23	
39		シギ科	オオソリハシシギ																				
40			チュウシヤクシギ	★																			
41			アオアシシギ																				
42			クサシギ																				
43			キアシシギ	★																			
44			ソリハシシギ																				
45			イソシギ		23	3	2	1	2	1	2	3	2	3	2	3	2	1	2	1	1	2	
46			キョウジョシギ																				
47			トウネン																				
48			ウズラシギ																				
49			ハマシギ	★	84	18																	
50		カモメ科	コリカモメ		870	322	2	48	3	81	297	5	270	78	1		88	1	18		12		
51			ズグロカモメ														1					1	
52			ウミネコ																				
53			カモメ												1				1				
54			セグロカモメ		1											5	11					2	
55			オオセグロカモメ		29	1	1	1		1	12	1	41	1		1	1					1	
56			コアジサシ	★																			
57			アジサシ																				
58			クロハラアジサシ																				
種類数計					24	19	13	15	13	14	17	12	13	9	16	16	18	13	15	12	19	17	
個体数計					1864	2001	415	609	508	332	1631	294	524	391	609	504	356	368	424	904	309	1204	

注1)3回の定点カウント調査(満潮・半干出・干潮)で確認された最大個体数を整理した。  
 注2)春の渡り期と秋の渡り期は2地点(B1・B2)、越冬期は4地点(B1・B2・B3・B4)の最大個体数を示す。  
 注3)定位記録法で確認された種のうち、水鳥類を整理した(任意に観察された種は除外)。

表 5-8 現地調査で確認された水鳥類の重要種一覧（平成10～令和2年度）

No.	目名	科名	種名	学名	注目種	*1) 種の 保存法	*2) 天然 記念物	*3) 環境省 RL2020	*4) 千葉県 RL2019	
1	カモ目	カモ科	オカヨシガモ	<i>Anas strepera</i>					C	
2			ヨシガモ	<i>Anas falcata</i>					B	
3			スズガモ	<i>Aythya marila</i>	★				D	
4			ホオジロガモ	<i>Bucephala clangula</i>					B	
5			ウミアイサ	<i>Mergus serrator</i>					D	
6	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>				C		
7			カンムリカイツブリ	<i>Podiceps cristatus</i>				D		
8	ペリカン目	サギ科	ダイサギ	<i>Ardea alba</i>	★			D		
9			チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>			NT	B		
10			コサギ	<i>Egretta garzetta</i>	★				B	
11	ツル目	クイナ科	バン	<i>Gallinula chloropus</i>				B		
12			オオバン	<i>Fulica atra</i>				C		
13	チドリ目	チドリ科	ムナグロ	<i>Pluvialis fulva</i>				B		
14			ダイゼン	<i>Pluvialis squatarola</i>				A		
15			イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>				C		
16			コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>				B		
17			シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>	★			VU	A	
18			メダイチドリ	<i>Charadrius mongolus</i>		国際			C	
19			オオメダイチドリ	<i>Charadrius leschenaultii</i>		国際				
20			ミヤコドリ科	ミヤコドリ	<i>Haematopus ostralegus</i>				A	
21			シギ科	オオツリハシシギ	<i>Limosa lapponica</i>		国際		VU	C
22				チュウシャクシギ	<i>Numenius phaeopus</i>	★				C
23				アオアシシギ	<i>Tringa nebularia</i>					B
24				クサシギ	<i>Tringa ochropus</i>					C
25				キアシシギ	<i>Heteroscelus brevipes</i>	★				C
26				ソリハシシギ	<i>Xenus cinereus</i>					C
27				イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>					A
28				キョウジョシギ	<i>Arenaria interpres</i>					C
29				トウネン	<i>Calidris ruficollis</i>					D
30				ウズラシギ	<i>Calidris acuminata</i>					B
31				ハマシギ	<i>Calidris alpina</i>	★				B
32		カモメ科		ズグロカモメ	<i>Larus saundersi</i>				NT	A
33				オオセグロカモメ	<i>Larus schistisagus</i>				NT	
34				コアジサシ	<i>Sterna albifrons</i>	★				VU
計		5目		8科	34種		8種	3種	0種	7種

注1) 調査期間：平成10年9月～令和3年1月

注2) ★は「県単道路改良（幹線）委託（環境調査）報告書、平成15年3月」において注目種として選定された種を示す。

注3) 貴重種の選定基準

\*1) 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」において以下の項目に選定されている種及び亜種

国内：国内希少野生動植物種（別表第一に記載されている）

国際：国際希少野生動植物種（別表第二に記載されている）

緊急：緊急指定種

\*2) 文化財保護法により、保護されている種及び亜種を示す

特天：国指定特別天然記念物

国：国指定天然記念物

地域：国指定天然記念物のうち、地域指定のあるもの

\*3) 「環境省（2020）レッドリスト」（令和2年3月）

EX：絶滅・・・我が国ではすでに絶滅したと考えられる種

EW：野生絶滅・・・飼育・栽培下でのみ存続している種

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類・・・絶滅の危機に瀕している種

CR：絶滅危惧ⅠA類・・・絶滅の危機に瀕している種のうち、ごく近い将来における野生での絶滅の可能性が極めて高いもの

EN：絶滅危惧ⅠB類・・・絶滅の危機に瀕している種のうち、A類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

VU：絶滅危惧Ⅱ類・・・絶滅の危険が増大している種

NT：準絶滅危惧・・・存続基盤が脆弱な種。現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

DD：情報不足・・・評価するだけの情報が不足している種

LP：地域個体群・・・地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

\*4) 「千葉県レッドリスト動物編 2019年改訂版」に掲載されている種

X：消息不明・絶滅生物

A：最重要保護生物

B：重要保護生物

C：要保護生物

D：一般保護生物